

40のハディース

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において

第1のハディース

行いは意図によって判断される

アミール・アル＝ムウミニーンと呼ばれ、ハフサの父であるウマル・ブン・アル＝ハッターブ(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「私は、アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)がこう言うのを聞きました:「行いというものは、その意図によるものである。そして全ての者は、その意図したところのものによって(その報奨を)得る。したがってアッラーとその使徒ゆえにヒジュラ(聖遷)した者は、アッラーとその使徒ゆえにヒジュラをした(報奨を得る)のであり、一方現世的利益や女性との結婚が目的でヒジュラした者は、それ相応のものゆえにヒジュラしたに過ぎない。」ハディース学の大家である二人のイマーム、アブー・アブドッラー・ムハンマド・ブン・イスマーイール・ブン・イブラーヒーム・ブン・アル＝ムギーラ・ブン・バルディズバ・アル＝ブハーリー(1)と、アブル＝フセイン・ムスリム・ブン・アル＝ハッジャージュ・ブン・ムスリム・アル＝クシャイリィユ・アン＝ナイサーブリー(彼らにアッラーのご満悦あれ)(1907)の伝承。この2つの真正集は伝承集の中でも最も真正なものです。

第2のハディース

ムスリムたちに彼らの宗教を教えるため、ジブリールが到来すること

ウマル(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「私たちがある日アッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)と共にある時、純白の衣服をまとい、漆黒の髪の一の男が私たちのもとに現れました。彼には旅の形跡はありませんでしたが、私たちの誰一人として彼を知る者はいませんでした。彼は預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)のもとまでやって来ると、彼の両膝を両膝につき合わせるようにして座り、彼の両手の平をその両腿の上に置きました。そして言いました:「ムハンマドよ、イスラームについて教えてくれ。」するとアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「イスラームとは、ラー・イラーハ・イツラッラー、ムハンマドゥッラッスルッラー(アッラーの他に真に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはその使徒である)と証言し、サラ(礼拝)し、ザカー(浄財)を施し、ラマダーン月にサウム(齋戒、いわゆる断食)し、それが可能であるならばカアバ神殿を目指してハッジ(大巡礼)を行うことです。」(男は)言いました:「正しい。」私たちは自分で尋ねておきながら、答えを認証するその男に驚きました。(男は)続けて質問して)言いました:「それではイマームについて教えてくれ。(アッラーの使徒は)言いました:「アッラーとその天使たち、諸啓典、諸使徒、最後の日、そしてそれが良いことであれ悪いことであれ定命を信じることです。」(男は)言いました:「正しい。」(そして男は)続けて)言いました:「それではイフサーンについて教えてくれ。」(アッラーの使徒は)言いました:「アッラーがまるで眼前におられるかのように、かれを崇めることです。そして例えかれが見えなくとも、かれはあなたをご覧になられるのです。」(男は)また)言いました:「それでは審判の日について教えてくれ。」(アッラーの使徒は)言いました:「質問を受けた者はそれについて、質問者よりも知っているわけではありません。」(男は)また)言いました:「それではその諸々の予兆について教えてくれ。」(アッラーの使徒は)言いました:「あなたは(その諸々の予兆として)奴隷女がその主人を産むのを見るでしょう。また衣服も靴もつけていない貧しい羊飼いたちが、競って高い建築物を建て合うのを見るでしょう。」それから(男は)去って行きました。私(ウマル)は暫くそのまま留まっていたましたが、すると(アッラーの使徒は)私にこう言いました:「ウマルよ、あの質問者が誰か分かるか?」私は言いました:「アッラーとその使徒がよくご存知です。」(アッラーの使徒は)言いました:「彼こそジブリールである。あなた方にあなた方の宗教を教えるためにやって来たのである。」」ムスリム(8)の伝承。

第3のハディース

イスラームは5つの(柱)の上に建つこと

ウマル・ブン・アル＝ハッターブの息子であるアブー・アブドゥルラフマーン・アブドッラー(彼らにアッラーのご満悦あれ)は言いました:「私は、アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)がこう言うのを聞きました:「イスラームは5つの(柱)上に建てられている:それは、アッラーの他に真に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはその使徒である(ラー・イラーハ・イツラッラー、ムハンマドゥッラッスルッラー)と証言し、サラ(礼拝)し、ザカー(浄財)を施し、カアバ神殿を目指してハッジ(大巡礼)を行い、ラマダーン月にサウム(齋戒、いわゆる断食)することである。」アル＝ブハーリー(8)とムスリム(16)の伝承。

第4のハディース

母親の胎内で形成されること

アブー・アブドゥルラフマーン・アブドッラー・ブン・マスウード(彼にアッラーのご満悦あれ)によると、真実を語り、その言葉が正しいと信じられていたアッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は私たちに述べました:「本当にあなた方の創造は母親の胎内で集められ40日間、精子が宿る。それから同じ期間、凝血となり、それから同様に

して肉塊となる。その後、天使が遣わされて魂を吹き込む。そして天使は四つの言葉(を書くこと)を命ぜられる。つまり、彼が授かる糧、寿命、行為、幸、不幸を書き留めるのである。かれ(アッラー)以外に真に崇拝すべきものはない御方に誓って、あなた方の誰かが天国に今にも手が届きそうな位いの立派な行いをしながら、最後に記された定めが彼に先行して、遂に彼は地獄の住人となる行為をしてしまう。そしてそこに入ってしまう。また、あなた方の誰かが地獄の住人となる行為をしつづけて、彼とその間が今にも手が届きそうな位になったとき、彼に記された定めが先行して彼は天国の住人となる行為をする。その結果彼は天国に入ることになるのである。」

アル=ブハーリー(3208)とムスリム(2643)の伝承。

第5のハディース

誰れかが私達のこのこと(宗教上のこと)で根拠のない新説を主張してもそれは否定される

ウンムル=ムミニーン(信仰者達の母)ウンム・アブドッラー・アーイシャ(彼女にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は言いました:“もし誰れかが私達のこのこと(宗教上のこと)で根拠のない新説を主張してもそれは否定される。”」アル=ブハーリー(2697)とムスリム(1718)の伝承。

また、ムスリムの伝承では:

「誰れかが私達の事柄に反した行為を行ったとすればそれは拒否されるべきことである。」

第6のハディース

合法的なものは明らかであり、非合法的なものも明らかであること

アブー・アブドッラー・アン=ヌマーン・ブン・バシール(彼らにアッラーのご満悦あれ)は言いました:「私はアッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)がこう言うのを聞きました:“合法的なものは明らかであり、非合法的なものも明らかである。そしてその間には、多くの者が知らない疑わしい物事がある。ゆえにそういった疑念の余地のある物事から身を慎む者は、自らの宗教と尊厳を守ることになろう。そしてそういった物事に陥る者は、禁じられた領域に足を踏み入れてしまうことになろう。それはまるで、禁じられた領域の周辺で(家畜が草を食む)番をする牧童のようであり、それらは今にもそこに入ってしまうようである。実に全ての王には、(彼が定めた)禁じられた領域がある。そして実にアッラーが禁じられた領域とは、かれの禁じられた物事である。そして実に体には、それさえ健全であれば体全体も健全であり、それが悪ければ体全体も悪くなるどころの1個の肉塊がある。そして実にそれは、心なのである。”」アル=ブハーリー(52)とムスリム(1599)の伝承。

第7のハディース

宗教とは誠実さであること

アブー・ルカイヤ・タミーム・ブン・アウス・アッ=ダーリー(彼にアッラーのご満悦あれ)によれば、預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)はこう言いました:

「“宗教とは誠実さである。”私たちは言いました:“誰に対する(誠実さですか)?” 預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:“アッラーとその啓典、その使徒、そしてムスリムの指導者たち及び一般のムスリムたちに対する誠実さである。”」

ムスリム(55)の伝承。

第8のハディース

戦うよう命じられたこと

イブン・ウマル(彼らにアッラーのご満悦あれ)によればアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「私は人々が、アッラーの他に真に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはその使徒である(ラー=イラー=ハイッラッラー、ムハンマドウツラスールッラー)と証言し、サラ(礼拝)を行い、ザカー(浄財)を施すまで戦うように命じられた。そしてもし、彼らがそれらを行ったならば、イスラームの理念に反しない(罰を受けるに相応しい行為をしない)限り彼らは自分たちの生命と財産を保証される。そして彼らに関する清算は至高なるアッラーに委ねられるのである。」アル=ブハーリー(25)とムスリム(22)の伝承。

第9のハディース

預言者が禁じた場合には、それを行わないこと

アブー・フライラ・アブドゥルラフマーン・ブン・サフル(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「私はアッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)がこう言うのを聞きました:“私がなにかを禁じた場合には、それを行わないようにしなさい。また私がなにかを命じたならば、あなたたちのできる範囲内でそれを実行しなさい。というのは、あ

まりに質問しすぎたり、預言者に反対したりしたため、身を滅ぼした人たちが以前にいたからです。”アル＝ブハーリー(7288)とムスリム(1337)の伝承。

第10のハディース

アッラーは善であられ、善でないものはお受けにならないこと

アブー・フライラ(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は言いました:“至高なるアッラーは善であられ、善でないものはお受けにならない。まことに、アッラーは使徒達にお命じになられたことを、信仰する者たちにも命じられた。”(すなわち『あなた方使徒達よ、善い清いものを食べ、善い行いをしなさい。われはあなた方のすることを熟知している。』(クルアーン第23章51節)また『信仰する者よ、われがあなた方に与えた良いものを食べなさい。』(クルアーン第2章172節)それからその御方は、髪は乱れほごりにまみれた長旅の者についてお述べになった。“その男は両手を空高くさし伸べて『おお、主よ、おお、主よ』と祈願する。しかし彼の食事は不法、彼の飲物も不法、彼の衣服も不法である。つまり不法なもので生活を営んでいたのである。このような場合、いかにして彼の願いが受け入れられるであろうか。”ムスリム(1015)の伝承。

第11のハディース

疑わしいものから離れ、疑念の余地のないものをとること

アッラーのみ使い(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の孫で、アリー・ブン・アブー・ターリブの息子にあたり、み使いから愛情を注がれたアブー・ムハンマド・アル＝ハサン(彼らにアッラーのご満悦あれ)は言いました:「私はアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)が次のように言うのを覚えています:“疑わしいものから離れ、疑念の余地のないものをとみなさい。”アッ＝ティルミズィー(2520)とアン＝ナサーイー(5711)の伝承。尚、アッ＝ティルミズィーは良好で正しい伝承としている。

第12のハディース

関りのない問題を放っておくこと

アブー・フライラ(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は言いました:“自らに関りのない問題を放っておくことは、良きムスリムであることの一部である。”良好なハディース。アッ＝ティルミズィー(2318)とイブン＝マージャ(3976)の伝承。

第13のハディース

自分のことを愛するように兄弟を愛するようになるまでは、誰一人(本当の)信仰者とはいえない

アブー・ハムザ・アナス・ブン・マールク(彼にアッラーのご満悦あれ)ーみ使い(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)の給仕ーは預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)が次のように語ったとして伝えている:“自分のことを愛するように兄弟を愛するようになるまでは、誰一人(本当の)信仰者とはいえない。”アル＝ブハーリー(13)とムスリム(45)の伝承。

第14のハディース

ムスリムの生命は侵すべからざるものである。但し、3つの状況の場合 は別であること

イブン・マスウード(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は言いました:“[ラー・イラーハ・イツラッラー、ムハンマドゥッラッスールッラー(アッラーの他に真に崇拝すべきものはなく、ムハンマドはその使徒である)]と証言するムスリムの生命は、侵すべからざるものである。但し以下の3つの場合は別である:既婚者で姦淫した者、生命に対する生命(報復刑による死刑)、イスラームの宗教を棄て、共同体を離れる者。”アル＝ブハーリー(6878)とムスリム(1676)の伝承。

第15のハディース

アッラーと最後の日を信じる者は、よきことを口にすること

アブー・フライラ(彼にアッラーのご満悦あれ)は伝えています:「アッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)はこう言いました:“アッラーと最後の日を信仰する者は、よきことを話すか、さもなければ黙っているのがよい。そしてアッラーと最後の日を信仰する者は、隣人を害してはならない。またアッラーと最後の日を信仰する者は、客を歓待するのだ。”アル＝ブハーリー(6018)とムスリム(47)の伝承。

第16のハディース

怒りを抑えること

アブー・フライラ(彼にアッラーのご満悦あれ)によると、ある男が預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)に言いました:「助言を下さい。」(預言者は)言いました:「怒らないことである。」すると男は繰り返し(助言を)求めました。(預言者は)言いました:「怒らないことである。」」アル＝ブハーリー(6116)の伝承。

第17のハディース

アッラーは全てにおいて善行をお命じになられたこと

アブー・ヤラー・シャッダード・イブン・アウス(彼にアッラーのご満悦あれ)によると「アッラーのみ使い(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「アッラーは全てにおいて善行をお命じになられた。それで殺生する時にはよき殺生をし、屠殺する時にもよき屠殺をしなさい。刃物を研ぎ、犠牲(が感じる痛み)を和らげよ。」」ムスリム(1955)の伝承。

第18のハディース

何処にいようともアッラーを畏れること

アブー・ザッル・ジュンドゥブ・ブン・ジュナーダとアブー・アブドゥル＝ラフマーン・ムアーズ・ブン・ジャバル(彼らにアッラーのご満悦あれ)によるとアッラーのみ使い(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「あなたが何処にいようともアッラーを畏れなさい。悪行の後にはそれを拭い消すような善行に努めなさい。また人々に対しては良き性質でもって接しなさい。」アッ＝ティルミズィー(1987)の伝承。尚、アッ＝ティルミズィーは良好な伝承としており、他の版では良好で正しい伝承としている。

第19のハディース

(預言者が少年に伝えた言葉を)心に書き留めて堅守すること。そうすればアッラーが護って下さること

アブドッラー・ブン・アッバース(彼らにアッラーのご満悦あれ)は言いました:「ある日私はアッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)の後ろにいました。彼は私にこう言いました:「少年よ、お前にある言葉を教えてやろう。それを心に書き留めて堅守するのだ。そうすればアッラーがお前を護って下さるだろう。アッラー(があなたに命じ禁じられること)を守るのだ。そうすればかれを眼前に見出すであろう。何かを乞うときはアッラーに乞うのだ。そして援助を求める時はアッラーに援助を求めるのだ。そして知るのだ。全ての者があなたを益しようとして一丸になっても、アッラーがあなたに対して既にお定めになられたこと以外は何一つとしてあなたを益することがない。また全ての者があなたを害しようとして一丸になっても、アッラーがあなたに対して既にお定めになられたこと以外は何一つとしてあなたを害することがない。(定命の)筆は既に置かれ、(それが書き留められる)ページ(のインク)はもう乾いてしまったのである。」」アッ＝ティルミズィー(2516)の伝承。尚、アッ＝ティルミズィーは良好で正しい伝承としている。また、アッ＝ティルミズィー以外の伝承では次のように伝えられている:「アッラー(があなたに命じ禁じられること)を心に書き留めて堅守するのだ。そうすればかれを眼前に見出すであろう。順境にある時にアッラーの教えを守れば、困難にある時にかれはあなたを援助してください。アッラーがあなた以外に定められたことはあなたに降りかかることはなく、またアッラーがあなたに定められたことを防ぐことはできない。勝利は忍耐と共にあり、安堵は災難と共に、そして楽は苦と共にあることを知りなさい。」

第20のハディース

恥ずかしいと思わないならば、好きなことをするがよい

アブー・マスウード・ウクバ・ブン・アムル・アル＝アンサーリー・アル＝バドゥリー(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は言いました:「人々に継承されている預言者たちの言葉に、つぎのようなものがある。『あなたが恥ずかしいと思わないならば、好きなことをするがよい。』」」アル＝ブハーリー(3483)の伝承。

第21のハディース

アッラーを信じますと言い、それを固く守っていくこと

アブー・アムル、またはアブー・アムラとも言われているスフヤーン・ブン・アブドッラー(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「私はアッラーのみ使いに言いました:「あなた以外に尋ねることのできない、イスラームに関することを教えて下さい。」これに対しみ使いは言いました:「アッラーを信じますと言い、それを固く守っていくことです。」」ムスリム(38)の伝承。

第22のハディース

礼拝の義務を守り、ラマダーンの サウム（齋戒、いわゆる断食）を行うこと

アブー・アブドゥラー・ジャービル・ブン・アブドゥラー・アル＝アンサーリー（彼らにアッラーのご満悦あれ）は伝えています：「ある男がアッラーのみ使い（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）に尋ねました。その男は言いました：「もしも私が礼拝の義務を守り、ラマダーンの サウム（齋戒、いわゆる断食）をし、合法のものを合法とし、禁じられたものを避け、それ以上のことを行わなくても、私は天国に入れるでしょうか？」預言者は言いました：「その通りである。」」ムスリム(15)の伝承。

第23のハディース

清浄さは信仰の半分であること

アブー・マールク・アル＝ハーリス・ブン・アースィム・アル＝アシュアリー（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーのみ使い（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「清浄さはイーマーンの半分である。そして「アル＝ハムドゥリッラー」は（審判の日の善行の）秤を満たし、「スブハーナッラー」と「アル＝ハムドゥリッラー」は天地を充溢させる。そしてサラー（礼拝）は光であり、サダカ（施し）は明証である。また忍耐は輝きであり、クルアーンは（審判の日）あなたにとっての証人、あるいはあなたに対しての証人にもなり得る。全ての者は行いに勤しみ、自らの魂を（アッラーと）取引する。それである者は（アッラーへの服従行為によって）自らの魂を（地獄の懲罰から）救い、またある者は（シャイターンや私欲に従って）自らの魂を滅ぼすのだ。」ムスリム(223)の伝承。

第24のハディース

アッラーは自らに不正を禁じたこと

アブー・ザッル・アル＝ギファーリー（彼にアッラーのご満悦あれ）によると、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は至高で偉大なるアッラーがこう仰せられたと伝えました：「わがしもべたちよ：われは自らに不正を禁じ、またあなたがたの間においてもそれを禁じた。ゆえに互いに不正を為してはならない。わがしもべたちよ、われが導いた者を除けば、あなたがたはすべて道に迷っている。ゆえにわれに導きを求めよ。そうすれば、われはあなたがたを導くだろう。わがしもべたちよ、われが糧を与えた者を除けば、あなたがたはすべて飢えている。ゆえにわれに糧を求めよ。そうすれば、われはあなたがたに糧を与えるだろう。わがしもべたちよ、われが衣服を与えた者を除けば、あなたがたはすべて裸である。ゆえにわれに衣服を求めよ。そうすれば、われはあなたがたに衣服を与えるだろう。わがしもべたちよ、昼も夜も、あなたがたは過ちを犯す。だがわれは全ての過ちを赦す。ゆえにわれに赦しを求めよ。そうすれば、われはあなたがたを赦すだろう。わがしもべたちよ、あなたがたは決してわれを害することは出来ず、またあなたがたは決して自らを益することも出来ない。ゆえにわれに益を求めよ。わがしもべたちよ、もしもあなたが、あなたがたのうち最初の者よりも最後の者よりも、またすべてのジンとすべての人間よりも、最も敬虔な者よりも敬虔であったとしても、われの王国には何ひとつ増えるものはない。わがしもべたちよ、もしもあなたが、あなたがたのうち最初の者よりも最後の者よりも、またすべてのジンとすべての人間よりも、最も罪深い者よりも罪深くあったとしても、われの王国には何ひとつ減るものはない。わがしもべたちよ、もしもあなたがたのうち最初の者と最後の者が同じ場所に立ち、われに求め、それでわれが一人ひとりの望みをすべて叶えたとしても、海に落とした針により減らされた水ほどにも、われの王国からは何ひとつ減るものはない。わがしもべたちよ、われが数えるのはただあなたがたの行為のみであり、それに応じてわれはあなたがたに報いる。ゆえに良い報いを得た者は、ただアッラーに感謝せよ。だが何ひとつ得ない者は、ただ自らを非難せよ。」ムスリム(2577)の伝承。

第25のハディース

富裕な人達が（全ての）報酬をさらって行ってしまうこと

（このハディースも）また、アブー・ザッル（彼にアッラーのご満悦あれ）の伝えるところによると、教友達の幾人かが預言者（彼にアッラーの祝福と平安あれ）に言いました：『「アッラーのみ使いよ、富裕な人達は、われわれが礼拝するように礼拝し、断食するように断食し、その上彼等の豊富な財力でサダカ（施し）を行います。（その結果）彼等が（全ての）報酬をさらって行ってしまいます」と言った。み使いは「アッラーはあなた方にも行えるサダカをおつくりになったのではないのか？（つまり）すべてのタスビーフ（アッラーに称えあれと唱えること）はサダカである。すべてのタクビール（アッラーは偉大なりと唱えること）はサダカである。すべてのタフミード（全ての称賛はアッラーにありと唱えること）はサダカである。そしてすべてのタフリール（アッラー以外に真に崇拝すべきものは無しと唱えること）はサダカである。善行を勧めるのもサダカである。悪行を禁ずるのもサダカである。またあなた方が配偶者と交わることもサダカである」と申された。教友達は「アッラーのみ使いよ、誰かがただ性欲を満たすために行っても報酬はあるのですか？」といった。み使いは「もしそれが不法に行われたとすれば、その者は罪を負うとは考えないのか。同様に、もしそれが正当に行われたとすれば彼には当然報酬がある」と申された。』ムスリム(1006)の伝承。

第26のハディース

人間のすべての関節部はその恩恵に感謝して、施しを行わなければならないこと

アブー・フライラ(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は言いました:“人間のすべての関節部は太陽が昇ったらその与えられた恩恵に感謝して毎日、施し(サダカ)を行わなければならない。二人の間を公正に取り持つことも施しなら、人を彼の動物に乗せて上げたり、荷を積んで上げることも施しである。また善き言葉も施しなら、あなたが礼拝に向う一歩一歩も、道から害になるものを取り除くことも施しなのである。”」アル=ブハーリー(2989)とムスリム(1009)の伝承。

第27のハディース

善良とは親切で思いやりのある性向であること

アン=ナウワース・ブン・サムアーン(彼にアッラーのご満悦あれ)によると、預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「善良とは親切で思いやりのある性向のことです。そして悪徳とはあなたの胸を疑惑と罪の意識による恐怖でかきみだすもので、他人にはそれをどうしても知られまいとするものです。」ムスリム(2553)の伝承。
ワービサ・ブン・マアバド(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「私は、アッラーのみ使い(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)のもとへ行きました。すると(み使いは)言いました:「善良さについて尋ねるために来たのですか? 私は、言いました:その通りです。すると預言者は言いました:あなたの心に尋ねてみなさい。善良さとはその為に心が平安であるものです。また悪徳とは心を掻き乱し、胸にわだかまりを残すものです。」良好なハディース。2人のイマーム、アフマド・ブン・ハンバル(4/227)とアッ=ダーリミ(2/246)のムスナドに収められた良好な伝承。

第28のハディース

アッラーに対する畏敬の念をもつこと、また指導者たちに従うことの忠告

アブー・ナジフ・アル=イルバード・ブン・サーリヤ(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーのみ使い(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は私たちの心を恐れで満ちし、目から涙が溢れるような説教を行いました。その為、私たちは言いました:“アッラーのみ使いよ、これはまるで別れの説教のようでした。私たちに助言をお与えください。”預言者は言いました:“私はあなた方にアッラーに対する畏敬の念をもつこと、またあなた方の奴隷が指導者になったとしても耳を貸し、従うよう忠告します。実際、あなた方の内で長く生きる者たちは、多くの意見の相違を見ることでしょう。あなた方には私のスンナと正しく導かれたカリフたちに従うのです。そしてその教えにしっかりとしがみついているのです。また新しい出来事には気をつけなさい。実にすべてのビドウア(宗教における新奇な出来事)は踏み迷わせるものなのだから。”」アブー・ダーウード(4607)とアッ=ティルミズィー(266)の伝承。尚、アッ=ティルミズィーは良好で正しい伝承としている。

第29のハディース

アッラーと並べて他のものを崇拝しないこと

ムアーズ・ブン・ジャバル(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーのみ使いよ、私を天国へと入らせ、地獄の業火から遠ざける行為を教えてください。」預言者は言いました:“あなたは大変(重要)な質問をしました。実にそれはアッラーが容易にされた者に対しては、容易なことではあるが、アッラーと並べて他に崇拝することなく、サラ(礼拝)を行い、ザカー(浄財)を施し、ラマダーン月にサウム(齋戒、いわゆる断食)し、カアバ神殿を目指してハッジ(大巡礼)することです。”それから預言者は言いました:“私は(任意の)善行についてあなた方に示しませんでしたか? 断食は盾であり、施しは水が火を消すように罪を拭い去ります。そして真夜中の礼拝があります。それから預言者は(次の節を)朗読されました:『かれらの体が臥床を離れると、畏れと希望とを抱いて主に祈り、われが授けたものを施しにさし出す。かれらはその行ったことの報奨として、喜ばしいものが自分のためにひそかに(用意)されているのを知らない。』(クルアーン32章16-17節)それから預言者は言いました:“私は(あなたが質問した)問題の核心とその柱、またその際立ったものについて伝えませんでしたか?”私たちは言いました:“はい、アッラーのみ使いよ、教えてください。”すると預言者は言いました:“問題の核心とはイスラームであり、柱とはサラ(礼拝)であり、また最も際立ったものとはジハードである。”それから(預言者は)言いました:“それらすべてを如何に統御したらよいか伝えませんでしたか?”私たちは言いました:“これを慎むのです。”私は言いました:“アッラーのみ使いよ、教えてください。”すると預言者は言いました:“これを慎むのです。”私は言いました:“アッラーの預言者よ、私たちは話したことで評価されるのでしょうか?”すると預言者は言いました:“そなたの母親は気を失ってしまうだろう。ムアーズよ、人たちが地獄の業火に彼らの顔、もしくは鼻を下にして投げ入れられるとき、彼らが自らの舌で稼いだもの以外の理由があるだろうか。”」アッ=ティルミズィー(2616)の伝承。尚、アッ=ティルミズィーは良好で正しい伝承としている。

第30のハディース

アッラーが定めた(宗教上の)義務を怠ってはならないこと

アブー・サアラバ・アル＝フシャニー・ジュルスーム・ブン・ナーシル(彼にアッラーのご満悦あれ)によると「アッラーのみ使い(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「至高なるアッラーは、(宗教上の)義務を定められました。その為、それらを怠ってはなりません。また、限度となる範囲を定められました。その為、その限度を越してはなりません。またある種の事柄を禁じられました。その為、それらを破ってはなりません。そして言及されていない事柄について、それはあなた方に対する憐れみからでたものであり、決して忘れていたからではありません。その為、そのようなことを追い求めてはならないのです。」」良好なハディース。アッ＝ダールクトウニー(4/184)とその他が伝える伝承。

第31のハディース

現世から身を引けば、アッラーがあなたのことを愛すること

アブ＝ル＝アッバース・サハル・ブン・サード・アッ＝サーイディー(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:ある男が預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)のもとへ来て言いました:「アッラーのみ使いよ、もし私がそれを行えば、アッラーと人々が私を愛するような行いを教えて下さい。」すると預言者は言いました:「現世から身を引けば、アッラーはあなたのことを愛するでしょう。また人々が所有するものから身を引けば、人々はあなたのことを愛するでしょう。」」良好なハディース。イブン・マージヤ(4102)とその他が良好な伝承の鎖とともに伝えている伝承。

第32のハディース

危害を加えること、また相互に危害を加え合うことの禁止

アブー・サイード・サード・ブン・マリク・ブン・シナーン・アル＝フドゥリー(彼にアッラーのご満悦あれ)によると、アッラーのみ使い(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「危害を加えること、また相互に危害を加え合うことのいずれもあってはならない。」良好なハディース。イブン・マージヤ(2341)とアッ＝ダールクトウニー(4/228)とその他がムスナドとして伝えている伝承。またマリクは彼の著書「アル＝ムワッタ」の中(2/746)でアムル・ブン・ヤヒヤーからその父、そして預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)へと繋がる鎖をもつムルサル(伝承)として記載しているが、アブー・サイードの名は記されていない。また、互いに他の信憑性を強めあう複数の伝承の鎖がある。

第33のハディース

要求する者には明らかな証拠が必要であり、拒絶する者には誓いが必要であること

イブン・アッバース(彼らにアッラーのご満悦あれ)によれば、アッラーのみ使い(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「人々が(論争で)主張したことを与えられるならば、彼らは他人の財産や生命まで要求するであろう。しかしながら、要求する者には明らかな証拠が必要であり、またそれを拒絶する者には誓いが必要である。」良好なハディース。アル＝バイハキー(10/252)とその他の伝承ではこのように伝えられており、また内容の一部は真正な2つの「サヒーフ」の中に記載されている。

第34のハディース

悪事を目にした者は、それを手でもって正すこと

アブー・サイード・アル＝フドリー(彼にアッラーの御満悦あれ)は言いました:「私はアッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)がこう言われるのを聞きました:「悪事を目にした者は、それを手でもって正せ。もしそう出来なければ、舌でもって正せ。そしてそれさえも出来なければ、心でもって正すのだ。そしてそれが最も弱いイーマーンである。」」ムスリム(49)の伝承。

第35のハディース

互いに他人を妬んだり、値をつり上げたりしてはならないこと

アブー・フライラ(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は言いました:「互いに他人を妬んだり、値をつり上げたりしてはならない。また互いに憎しみあつたり背を向けあつたりしてはならない。また他人の取引に割り込んではいならない。アッラーの僕たちよ、あなた方は互いに兄弟になりなさい。ムスリムは他のムスリムの兄弟なのだから。兄弟を虐げたり、見捨てたり、騙したり、軽蔑してはならない。敬虔さはここにあるのだ。」そのとき預言者は彼の胸を三回指さしました。「人間にとっての悪とは兄弟であるムスリムを

軽蔑することである。全てのムスリムは他のムスリムにとり侵すべからざるものである。彼の生命も、財産も、名誉も。」ムスリム(2564)の伝承。

第36のハディース

信仰者からこの世の悲しみを取り除いた者について

アブー・フライラ(彼にアッラーの御満悦あれ)によると預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)はこう言われました:「信仰者からこの世の悲しみを一つ取り除いた者には、アッラーが審判の日、彼の悲しみを一つ取り除いて下さるであろう。困窮者の苦しみを軽減した者には、アッラーが現世と来世で彼に容易にして下さる。また、ムスリムの過ちを隠してあばかぬ者に対しては、アッラーが現世と来世で彼の過ちを隠して下さる。アッラーは僕がその兄弟を助けるかぎり、その僕を助け支えるであろう。また、知識を求めて道を歩む者には、アッラーが天国に至れるようにその道を容易にして下さる。アッラーの家(マスジド)の一つに集まり、アッラーの啓典を誦み、互いに学び教え合う者たちの下には静寂が訪れ、慈悲が彼らを覆い、天使たちは彼らを取り囲むことであろう。そしてアッラーは周りにはべる者たちの前で彼らについて語るであろう。善行に遅れをとる者は、血筋をもってしても急ぎ行くことはできないのである。」ムスリム(2699)の伝承ではこの形で伝えられている。

第37のハディース

アッラーは善行、悪行を記録なされること

イブン・アッバース(彼らにアッラーのご満悦あれ)によれば、アッラーのみ使い(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は至高なる主がこう仰せられたと言いました:「アッラーは善行、悪行について記録なされる御方であり、それについて説明された。誰であれ、善行を志しながらそれを行わなかった者には、アッラーがは善行一つを記録なされる。また善行を志しそれを行った者には、アッラーは10倍から700倍、さらにはそれ以上の善行として記録なされる。また悪行を企て、それを行わなかった場合、アッラーは完全な一つの善行として記録して下さる。またもし悪行を企てそれを行った場合には、アッラーは悪行一つとして記録なされるのである。」アル=ブハーリー(6491)とムスリム(131)の伝承。2つの「サヒーフ」はこの形で伝えている。

第38のハディース

アッラーが愛するしもべに敵対する者には、アッラーが宣戦布告すること

アブー・フライラ(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーのみ使い(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は言いました:至高なるアッラーは仰られた:「わが愛する敬虔なしもべに敵対する者には、われが宣戦布告しよう。そしてわがしもべがわれに向かって(任意の崇拜行為によって)近付こうとする行為は、われが彼に義務付けたもの(によるそれ)よりもわれを悦ばせるものなのである。そしてわがしもべは(自発的な)任意の崇拜行為によって、われに向かって近付こうとし続ける。そしてわれは彼を愛で、彼の聞く聴覚となり、彼の見る視覚となり、彼がそれをもって制する手となり、それをもって歩む足となる。そして彼がわれに向かって何かを乞えば、われはそれを与えよう。彼がわが庇護を求めれば、われはそれを与えよう。」アル=ブハーリー(6502)の伝承。

第39のハディース

アッラーが間違いや失念、強制された行為を赦されること

イブン・アッバース(彼らにアッラーのご満悦あれ)によれば、アッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「アッラーは私の為に、私のウンマの間違いや失念、強制された行為を赦された。」良好なハディース。イブン・マージャ(2045)とアル=バイハキー(アッ=スナン7)の伝承。

第40のハディース

現世においては、異邦人か旅人のようであること

イブン・ウマル(彼らにアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーのみ使い(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は、私の肩に手を置きそして、言いました:“この世においては、異邦人か旅人のようでありなさい。”またイブン・ウマル(彼らにアッラーのご満悦あれ)は言いました:“夜には朝を期待することなく、また朝には夜を期待することのないようにしなさい。病気の為に健康をふりあて、死の為に生をふりあてなさい。”アル=ブハーリー(6416)の伝承。

第41のハディース

願望までも預言者がもたらしたものに従うようになるまで、本当の信仰者とは言えないこと

アブー・ムハンマド・アブドッラー・ブン・アムル・ブン・アル＝アース(彼らにアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーのみ使い(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:“その者の願望が私がもたらしたものに従うようになるまで、あなた方は本当の信仰者とは言えない。”」良好で正しい伝承。「アル＝フッジャ」の中にある正しい鎖を持つ伝承。

第42のハディース

アダムの子孫がアッラーを呼び求め、こころから願う限り、過ちが赦されること

アナス・ブン・マールク(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「私は、アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)がこう言うのを聞きました:“至高なるアッラーは仰せられました:“アーダム(アダム)の息子よ、お前が私を呼び求め、こころから願う限りそなたの過ちを赦し、大目に見てやろう。アーダムの息子よ、たとえお前の罪が空の雲に到達するまでであったとしても、それからわれに罪の赦しを乞うならば、お前を赦してやろう。アーダムの息子よ、お前がこの地球と同じくらいの大罪を犯し、それからわれのもとにやって来ても、われに並べて他に崇めない限り、それと同じ赦しを与えてやろう。”」アッ＝ティルミズイー(3540)の伝承。尚、アッ＝ティルミズイーは良好で正しい伝承としている。

第43のハディース

権利のある者に、定められた遺産の分配額を与えること

イブン・アッバース(彼らにアッラーのご満悦あれ)は伝えています:「アッラーの使徒(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「その権利のある者に、定められた遺産の分配額を与えよ。そしてもし残ったら、最も近縁の男性に与えるのだ。」アル＝ブハーリー(6732)とムスリム(1615)の伝承。

第44のハディース

血縁親族関係の者に違法とされることは、乳親子関係の者にも違法とされること

アーイシャ(彼女にアッラーのご満悦あれ)によれば、預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました:「血縁親族関係の者に違法とされることは、乳親子関係の者にも違法とされる。」アル＝ブハーリー(2646)とムスリム(1444)の伝承。

第45のハディース

アッラーとそのみ使いは酒の取引を禁じられたこと

ジャービル・ブン・アブドッラー(彼らにアッラーのご満悦あれ)によれば、アッラーのみ使いが勝利の年(マッカ征服の年)にマッカで次のように語ったとして伝えている:「アッラーとそのみ使いは酒と動物の死体と豚と偶像の取引を禁じました。すると人たちは言いました:“アッラーのみ使いよ、動物の死体の脂についてはどうですか？それは舟に塗装される(水の浸透を防ぐ)し、革のなめし油としても使われます。また庶民は(燈して)明かりにも使うことはできますか？”すると(預言者は)言いました:“いいえ、それはハラーム(禁じられていること)です。””と言いさらに続けて言いました:“アッラーがユダヤ人を呪われますように。彼等はアッラーがその脂を禁じたにもかかわらずその脂を溶かして売りその代金を得ているのです。”」アル＝ブハーリー(2236)とムスリム(1581)の伝承。

第46のハディース

酩酊させるものは、すべて禁じられていること

アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー(彼にアッラーのご満悦あれ)によると、預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は彼をイエメンに遣わしました。すると彼は現地で用意される飲み物について預言者に尋ねました。預言者は言いました:“それは何ですか？”彼は言いました:“アル＝ビツウとアル＝ミズルです。”預言者は言いました:“アル＝ビツウとは何ですか？”彼は言いました:“蜂蜜から作られるアルコール飲料で、アル＝ミズルは大麦から作られるアルコール飲料です。”すると預言者は言いました:“酩酊させるものは、すべて禁じられます。”」アル＝ブハーリー(4343)の伝承。

第47のハディース

人間が満たす器の中で、自分の胃を一杯にするよりも悪いことはないこと

アル＝ミクダーム・ブン・マアディカリバは言いました：「私はアッラーのみ使い（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“人間が満たす器の中で、自分の胃を一杯にするよりも悪いことはありません。アダムの子孫は背中を支えるだけものを食べれば十分です。これが不可能ならば、3分の1を食物に、3分の1を飲み物に、3分の1を呼吸に充てなさい。”」アフマド(4/132)とアッ＝ティルミズィー(2380)、イブン・マージャ(3349)の伝承。尚、アッ＝ティルミズィーは良好な伝承としている。

第48のハディース

四つの特徴を持つ者は、偽善者であること

アブドッラー・ブン・アムル(彼らにアッラーのご満悦あれ)によれば、預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました：「次の四つの特徴を持つ者は、全くの偽善者である。これらの一つでも持つ者は、その一つにおいてそれを棄てない限り偽善者である。それらは、話せば嘘を言い、約束すればそれを破り、口論で訴えれば汚い言葉を使い、同盟を結べば裏切る者たちである。」アル＝ブハーリー(34)とムスリム(58)の伝承。

第49のハディース

アッラーに対し真の意味でのタワククル(全てを委ねること)をすること

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ(彼にアッラーのご満悦あれ)によれば、預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)は言いました：“もしあなた方がアッラーに対し真の意味でのタワククル(全てを委ねること)をしたならば、朝には空腹で出かける鳥が夕には満腹で帰って来るように、(アッラーは)糧を与えて下さるであろう。”」アフマド(1/30と52)、アッ＝ティルミズィー(2344)、アン＝ナサーイーの著「アル＝クブラー」、「トフファトル＝アシュラーフ」(8/79)、イブン＝マージャ(4164)の伝承。イブン・ヒッバーン(730)とアル＝ハーキム(418)は正しい伝承としている。尚、アッ＝ティルミズィーは良好で正しい伝承としている。

第50のハディース

あなたの舌をアッラーのズィクル(唱念)でもって乾かさないようにすること

アブドッラー・ブン・ブスル(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました：「ある男が預言者(彼にアッラーからの祝福と平安あれ)のもとへ来て言いました：“アッラーのみ使いよ、私たちにとってイスラームの規定は多すぎます。私が行える容易なことを教えて下さい。” 預言者は言いました：“あなたの舌を、アッラーのズィクル(唱念)でもって乾かさないようにするのはです。”」アフマド(188と190)の伝承。

40のハディース

第1のハディース

行いは意図によって判断される

第2のハディース

ムスリムたちに彼らの宗教を教えるため、ジブリールが到来すること

第3のハディース

イスラームは5つの(柱)の上に建つこと

第4のハディース

母親の胎内で形成されること

第5のハディース

誰れかが私達のこのこと(宗教上のこと)で根拠のない新説を主張してもそれは否定される

第6のハディース

合法的なものは明らかであり、非合法的なものも明らかであること

第7のハディース

宗教とは誠実さであること

第8のハディース

戦うよう命じられたこと

第9のハディース

預言者が禁じた場合には、それを行わないこと

第10のハディース

アッラーは善であられ、善でないものはお受けにならないこと

第11のハディース

疑わしいものから離れ、疑念の余地のないものをとること

第12のハディース

関りのない問題を放っておくこと

第13のハディース

自分のことを愛するように兄弟を愛するようになるまでは、誰一人(本当の)信仰者とはいえない

第14のハディース

ムスリムの生命は侵すべからざるものである。但し、3つの状況の場合は別であること

第15のハディース

アッラーと最後の日を信じる者は、よきことを口にする

第16のハディース

怒りを抑えること

第17のハディース

アッラーは全てにおいて善行をお命じになられたこと

第18のハディース

何処にいようとアッラーを畏れること

第19のハディース

(預言者が少年に伝えた言葉を)心に書き留めて堅守すること。そうすればアッラーが護って下さること

第20のハディース

恥ずかしいと思わないならば、好きなことをするがよい

第21のハディース

アッラーを信じますと言い、それを固く守っていくこと

第22のハディース

礼拝の義務を守り、ラマダーンの サウム (齋戒、いわゆる断食)を行うこと

第23のハディース

清浄さは信仰の半分であること

第24のハディース

アッラーは自らに不正を禁じたこと

第25のハディース

富裕な人達が(全ての)報酬をさらって行ってしまうこと

第26のハディース

人間のすべての関節部はその恩恵に感謝して、施しを行わなければならないこと

第27のハディース

善良とは親切で思いやりのある性向であること

第28のハディース

アッラーに対する畏敬の念をもつこと、また指導者たちに従うことの忠告

- 第29のハディース
アッラーと並べて他のものを崇拜しないこと
- 第30のハディース
アッラーが定めた(宗教上の)義務を怠ってはならないこと
- 第31のハディース
現世から身を引けば、アッラーがあなたのことを愛すること
- 第32のハディース
危害を加えること、また相互に危害を加え合うことの禁止
- 第33のハディース
要求する者には明らかな証拠が必要であり、拒絶する者には誓いが必要であること
- 第34のハディース
悪事を目にした者は、それを手でもって正すこと
- 第35のハディース
互いに他人を妬んだり、値をつり上げたりしてはならないこと
- 第36のハディース
信仰者からこの世の悲しみを取り除いた者について
- 第37のハディース
アッラーは善行、悪行を記録なされること
- 第38のハディース
アッラーが愛するしもべに敵対する者には、アッラーが宣戦布告すること
- 第39のハディース
アッラーが間違いや失念、強制された行為を赦されること
- 第40のハディース
現世においては、異邦人か旅人のようであること
- 第41のハディース
願望までも預言者がもたらしたものに従うようになるまで、本当の信仰者とは言えないこと
- 第42のハディース
アダムの子孫がアッラーを呼び求め、こころから願う限り、過ちが赦されること
- 第43のハディース
権利のある者に、定められた遺産の分配額を与えること
- 第44のハディース
血縁親族関係の者に違法とされることは、乳親子関係の者にも違法とされること
- 第45のハディース
アッラーとそのみ使いは酒の取引を禁じられたこと
- 第46のハディース
酩酊させるものは、すべて禁じられていること
- 第47のハディース
人間が満たす器の中で、自分の胃を一杯にするよりも悪いことはないこと
- 第48のハディース
四つの特徴を持つ者は、偽善者であること
- 第49のハディース
アッラーに対し真の意味でのタワククル(全てを委ねること)をすること
- 第50のハディース
あなたの舌をアッラーのズィクル(唱念)でもって乾かさないようにすること